

事例 1

マインドマップで発想を広げて小論文を書く

1 育成を目指す言語能力

(1) PISA型「読解力」の立場から育成を目指す能力

ウ 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること
(イ) 自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成

*「読解力向上に関する指導資料—PISA調査(読解力)の結果分析と改善の方向—」(文部科学省)より

PISA型「読解力」は、テキストを読んで「解釈」したことについて評価されるだけではなく、テキストの表現の仕方を「熟考・評価」して自分の意見を書くことについても評価される。また、日本の生徒の「読解力」低下の一因として、記述式の設問での無答率がOECD平均の二倍から三倍になっていることが指摘されている。この二点を踏まえると、自分の考えを「書く」ことに関して指導を充実させることが、「読解力」向上のために有効であると考えた。

(2) 国語科の立場から育成を目指す能力

自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書くという言語能力を育成する。そのために、国語表現Ⅰの言語活動例の「エ 身近にある様々な表現を集めてその効果などについて考えたり、生徒の表現活動について自己評価や相互評価を行ったこと。」を参考にして指導を展開する。

生徒の多くは文章を書くことに対して苦手意識をもっている。初歩的な段階では、作文と小論文の違いが分からない。分かったとしても、時事問題などに対する関心の低さ、読書量の不足などから、書く材料をもっていない。このような実態を踏まえて、あるテーマに関してマインドマップ*¹で発想を広げることから始め、ワークシートに書かれた発問や指示に従って思考を整理した上で、小論文を書くという指導を展開しようと考えた。さらに、表現効果について自己評価や相互評価を行い、それらを生かして文章を推敲するという言語活動を取り入れる。

○該当する学習指導要領の指導事項

国語表現Ⅰ「B書くこと」

ア 自分の考えをもって論理的に意見を述べたり、相手の考えを尊重して話し合ったりすること。

2 学習活動の概要

(1) 単元名 マインドマップで発想を広げて小論文を書く (7時間)

(2) 単元の目標

- ① 目的に応じて題材を選び、自分の考えを文章にまとめたり、効果的な表現を考えて書いたりしようとする。 (関心・意欲・態度)
- ② 書くための発想を広げたり情報を整理したりして、自分の考えを文章にまとめる。(書く能力)
- ③ 表現効果について吟味して自己評価や相互評価をし、それらを自分の作品の推敲に役立てる。(書く能力)
- ④ 小論文を書くために必要な考察の型や論理的な文章展開の型を理解する。 (知識・理解)

*1 中央にテーマを書き、その周囲にテーマから連想したことを放射状に書き込んでいく手法。

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
① 目的に応じて題材を選び、自分の考えを文章にまとめたり、効果的な表現を考えて書いたりしようとしている。	① 書くための発想を広げたり情報を整理したりして、自分の考えを文章にまとめている。 ② 表現効果について吟味して自己評価や相互評価をし、それらを自分の作品の推敲に役立てている。	① 小論文を書くために必要な考察の型や論理的な文章展開の型を理解している。

(4) 指導と評価の計画（7時間）

時間	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1 2 3	① マインドマップの作り方を知る。 一つのテーマについてクラス全員で考えてマインドマップを作る。 ② 「最近気になったニュース」として挙げておいた三つのテーマの中から一つを選び、各自でマインドマップを作って思考を広げる。資料1 ③ テーマごとにグループを作り、各自のマインドマップを合わせて、疑問点を挙げる。資料2 ④ 新聞などを活用して、③で挙げた疑問点についてグループで調べ、テーマに対する問題点や解決策を考えて付箋に書き込む。	○ マインドマップの例を示し、作成の仕方を理解させる。 ○ 「ネット社会」、「食品偽装」、「育児」の三つのテーマの中から選択させる。 ○ テーマごとに4～5人のグループに分ける。	書く能力① (ワークシートへの記述の確認) 書く能力① (ワークシートへの記述の確認)
4 5	① 文章の構成を考え、箇条書きでワークシート資料3に書き込む。 ② ワークシート資料3を基に、序論、本論、結論を書く。資料4	○ 論理的な文章の展開について一つの型を示し、それに従って書かせる。	書く能力① 知識・理解① (ワークシートへの記述の確認)
6 7	① 自己評価を行う。資料5 ② グループ内で相互評価を行う。資料6 ③ 自己評価や相互評価を参考にして、より説得力のある文章になるように推敲する。	○ 客観的に見直しをさせる。 ○ 良い点を評価するとともに改善点をアドバイスするように促す。	書く能力② 知識・理解① (ワークシートへの記述の確認)

※「関心・意欲・態度」は単元全体を通して評価する。

3 評価の例

生徒の自己評価の状況を見ると、その多くが「a 良く書けたと思うところ」を三点以上挙げる事ができていた。しかし、「b 本当は、こう書きたかったと思うところ」を記入できた生徒は少なかった。また、「よく書けなかった」というような、印象を述べるにとどまり、具体性を欠くものが多かった。また、その一方で、「c 今回の方法で小論文を書いてみて、手ごたえや改善点について考えたこと」では、「発想を広げていくうちに自分のテーマが変わってきた」、「友人の意見を聞いて新しい発見があった」など、マインドマップを用い、グループ学習を通して小論文を書くという学習の成果を実感する記述も多かった。

相互評価においては、「a 良く書けていると思うところ」は自己評価のそれと比べると、具体的に書かれており、友人に良い点を伝えようとする態度が見られた。しかし、友人への気遣いからか、実際には誤字・脱字があっても「b 改善点」としての指摘はほとんどなされなかった。「c 感想」も「参考になった」というような良い評価に偏っていた。

また、小論文の内容としては、推敲の後も、なお練り上げる必要のあるものが多かった。生徒の初稿の例[資料4] (p8) と、自己評価・相互評価を経て推敲した例[資料7] (p11) を挙げておく。

発想を広げ、他者に伝えるために文章をまとめようとする姿勢や、互いの文章の良いところを認めるという姿勢が見られたことから、「関心・意欲・態度」については、評価規準に照らして概ね達成できた。一方、「書く能力」「知識・理解」については、評価規準を満たすために、指導を継続する必要がある。

4 成果と課題

(1) 成果

これまでの自身（本事例における指導者）の小論文指導を振り返ってみると、簡単な構成を考えさせただけで文章を書かせることが多く、「何を書くか」という指示はしても、「どう書くか」という指導を丁寧にしていなかった。また、生徒が書いた文章を添削して返却し、書き直させることはあっても、生徒に自己評価や相互評価をさせたことはなかった。今回はマインドマップの作成とグループ作業を取り入れることで、協力してアイデアを出し合い、それをもとに小論文を書くという指導を行った。テーマについては、事前に「最近気になるニュース」についてアンケートをとり、その中で回答が多く、小論文のテーマになりそうなものを選んだ。しかし、「気になる」とことと「知っている」とことの差は大きく、マインドマップを作る段階で苦労した生徒が多かった。また、マインドマップを基にグループで問題点や解決策を考える作業では、具体的な解決策が挙げられず、予定した以上に時間を要した。しかし、互いに意見を交換し、根拠を挙げて自分の意見を説明できたこともあり、その後の小論文を書く作業では、以前と比べて筆の進みが速い生徒が多いように感じられた。

「書く」ことにグループ作業を取り入れたことによって、生徒たちが自分の視点を変え、発想を広げることを体験できたことは、今後の表現活動に多少なりとも生かされるのではないだろうか。また、文章を相互に評価し、それを受け入れることを通して、読み手を意識した文章を書くことにつながっていく可能性が期待できる。

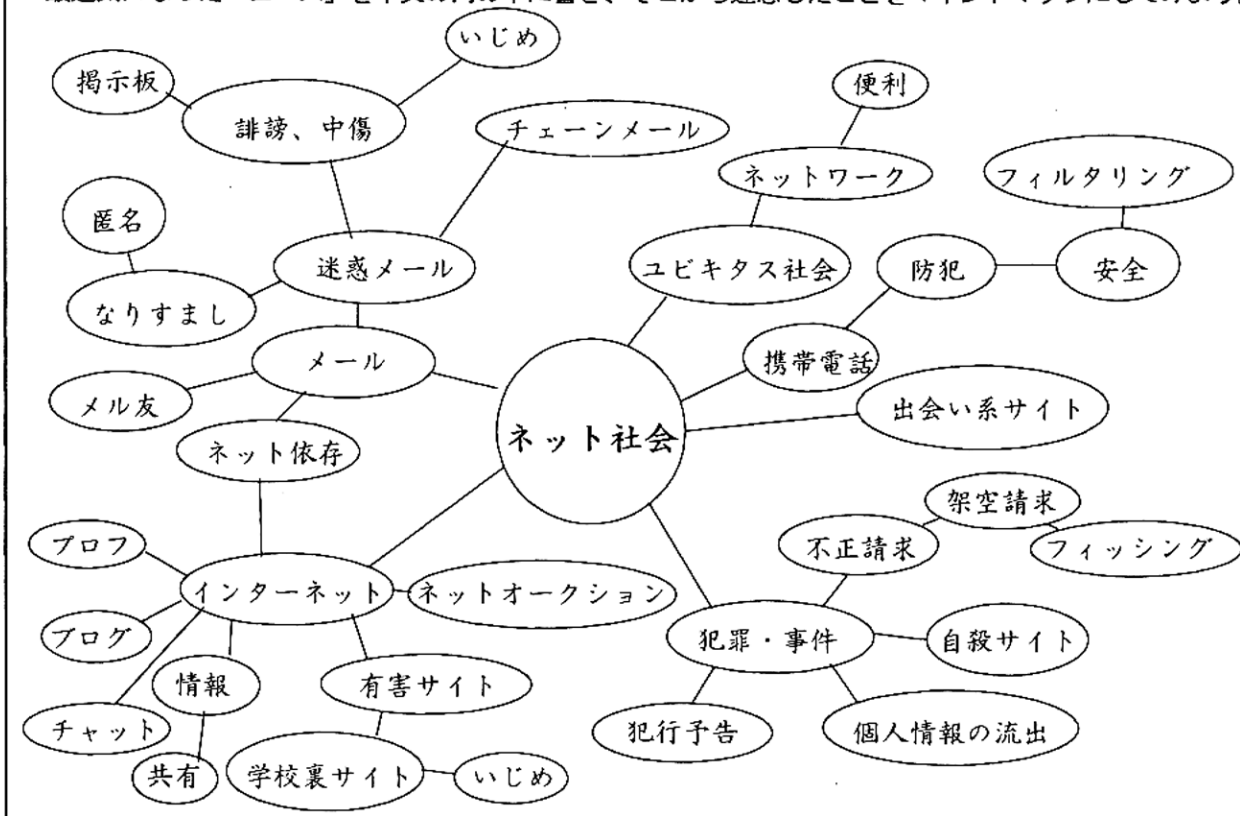
(2) 課題

マインドマップで発想を広げる方法や、グループ内での相互評価を生かして推敲するという書き方を、生徒は初めて体験したため、これらの手法に未熟な面があった。これらの手法を他の指導の場面でも取り入れて慣れさせ、効果を十分に発揮できるようにしていきたい。

参考文献

- ・ 田中孝一監修 西辻正副・富山哲也編『中学校・高等学校 PISA型「読解力」－考え方と実践－』明治書院、2007年
- ・ 北川達夫、フィンランド・メソッド普及会著『図解 フィンランド・メソッド入門』経済界、2005年
- ・ 大村はま、荻谷剛彦、荻谷夏子著『教えることの復権』筑摩書房、2003年

「最近気になったニュース」を中央の円の中に書き、そこから連想したことをマインドマップにしてみよう。



※マインドマップ…中央にキーワードなどを書き、そこから放射状にキーワードやイメージを繋げていくことで、発想を延ばしていく図解表現技法。フィンランド・メソッドでは「カルタ」と呼んでいる。

最近気になったニュース「ネット社会

」班員（〇〇、〇〇、〇〇、〇〇）

そのニュースの問題点と解決策

問題点

迷惑メール

通販、オークションでの詐欺

未成年の出会い系サイト

ネット依存

個人情報の流出

誹謗・中傷

自殺サイト、裏サイトへのアクセス

犯罪予告

解決策

迷惑メール
アドレス変更
サブアド使用
誹謗・中傷
アクセス制限
禁止ワード登録

通販
公式サイト利用
先払いしない

生のコミュニケーション

個人情報の流出
パスワード設定

生徒の作品例

年 組 番 氏名 ○○ ○○

グループで考えた問題点や解決策を基にして、箇条書きでまとめよう。

①序論 ニュースの内容と、その問題点をあげよう。

- ・ ネット依存。ひきこもり。
- ・ 誹謗、中傷。
- ・ 犯罪予告。自殺サイト、裏サイト。

②本論 ①であげた問題に関して、

a 自分はどのように考えているかを書こう。

- ・ 人間関係の希薄さ。
- ・ インターネットにのめり込む。
- ・

解決策を考えよう。

- ・ 実際に人とふれあう。
- ・
- ・

b 予想される反対意見を書こう。

- ・ 様々な情報が得られる。
- ・
- ・

③結論 解決策について、もう一度整理してみよう。

- ・ 会話が大切。
- ・ 周囲の助け。
- ・

生徒の作品例（誤字等も含めて原文のまま示す。）

年 組 番 氏名 ○○ ○○

箇条書きにまとめたものを利用して、意見をまとめ、小論文を書こう。

①序論 ニュースの内容をまとめ、どのようなことが問題になっているかを述べよう。（100字程度）

インターネットの普及により、ネット依存やひきこもりが増えてきている。仮想世界にのめりこみ、現実の生活がうまくできなくなったり、けい示板での誹謗や中傷、犯行予告も後をたたない。自殺サイトや裏サイトからおこる事件も耳にする。

②本論 b 自分とは反対の意見を考慮しつつ、自分の意見を明確にしよう。（200字程度）

私は、人間関係がうまくいかなかったことがネット依存の現因だと考える。周りの人々との人間関係が希薄になり、会話が減る。そして、会話をインターネット中の世界へと求める。しかし、インターネットは、私たちに様々な情報を与えてくれるものだ。顔も本名も知らない相手とやりとりすることは、個人情報をおやみに教えたり、悪口を書き込むなどをしなければ、よい刺激となるし、楽しい。だが、ルールやマナーをやぶったり、インターネットの世界にのめりこんだ時、問題となる。

②本論 a 本論 b で書いた自分の意見について、なぜそう言えるのか。解決策も提示して、具体的に書こう。（200～300字程度）

生身の人間と関わっている社会生活の中では、誹謗中傷するような人でなくても、実際に顔が見えないという環境にあるインターネットの世界では、気が大きくなり、心ない書きこみをしてしまうのだと思う。現実社会でのうまくいかないことはけ口としてインターネットを使う。また、ネット依存の人々も現実社会では、うまくいかない、会話する相手がなく、心のよりどころがない。という人が、人と関わりたいがためにインターネットにのめり込むのではないだろうか。この問題を解決するには、家族、地域、学校、会社などで実際に人とふれあうことができれば、人の気持ちにふれることもでき、ネット社会とのバランスもとれるだろう。

③結論 以上のことから、どのようなことが考えられるか、まとめてみよう。（50字程度）

以上のことから、ネット依存の問題は、人との直接の会話でかいしょうされると思う。また、周りの人々が、状況ように気づき必要ならば助ける手だすけをしてあげる事が大切だと思う。

年 組 番 氏名 ○○ ○○

自己評価

a 良く書けたと思うところを3点以上挙げなさい。

(例) 読みやすい字で丁寧に書けた。 文章展開の型に従って書けた。
 反対意見についてよく考えた。 根拠を挙げて自分の意見を述べることができた。
 具体的な解決策を挙げられた。

- ・ 原因を具体的に挙げられた。
- ・ 問題点をまとめて書けた。
- ・ 制限字数いっぱいを書けた。

b 本当は、こう書きたかったと思うところを挙げなさい。

- ・ 誹謗中傷とネット依存、何が言いたいのか明確でなかった。
 本当は…ネット依存と誹謗中傷を関連づけて書きたかった。

- ・ 本論bとaで言いたいことが同じになってしまった。
 本当は…bでは問題点を、aでは解決策をしっかり書きたかった。

c 今回の方法で小論文を書いてみて、手ごたえや改善点について考えたことを書きなさい。

こんな方法でした・・・ ①連想して枝を広げる。②問題点・解決策を考える。
 ③箇条書きでまとめる。④型に沿って小論文を書く。

いろいろな問題が出てきて、何を書けばいいのかわからなくなってしまった。発想を広げることにはできたが、整理しきれなかった。

年 組 番 氏名 ○○ ○○

相互評価

《 ○○ 》さんの小論文について

a 良く書けていると思うところを三点以上挙げなさい。

(例) 読みやすい字で丁寧に書いてある。 誤字・脱字がない(少ない)。
文章が簡潔で分かりやすい。

- ・言いたいことがよく分かった。
- ・よくまとまっていて読みやすかった。
- ・難しい言葉(仮想社会)などを使っていてよかった。
- ・インターネットにのめり込む人の気持ちを、よく考えて書いている。

b 改善点で下記に該当するものがあれば挙げて、どのように直したらいいか、提案しなさい。

- ・誤字・脱字などがある。 (仮装 → 仮想) (けい示 → 揭示)
(後 → 跡) (現因 → 原因)
(状きょう → 状況) (→)
- ・改善した方がいいところ。

- ・話し言葉や文章のねじれがある。一文が長すぎる。
- ・②本論bは「たしかに」、本論aは「しかし」で書き出した方がよい。
- ・本論aに書いた「顔が見えないと気が大きくなる」という内容は、本論bに書いて、本論aでは、それに対する対策を書いた方がよい。
- ・「人とふれあう」という抽象的な解決策でなく、より具体的な解決策を考えた方がよい。
- ・「おやみに教えたり、悪口を書き込むなどをしなければ、～やぶったり、～のめりこんだ時」
→「～たり、～たり」とする。
- ・「助ける手助け」
→「助けてあげることが」「手助けをしてあげることが」

c 小論文を読んだ感想を書きなさい。

- ・インターネットにのめり込む人の気持ちを想像して書いている点がよいと思った。「相手の顔が見えないと気が大きくなる」とか、「刺激になる」とか、本当にそうだと思った。「のめり込んでしまう人は、心のよりどころがない」と考えているところも、そのとおりだと思った。
- ・文章にまとまりがあって、読みやすかった。内容が詳しく書かれていて、自分の意見もはっきり書けていたので分かりやすかった。結論は、もう少し具体性があるとよい。

生徒の作品例（自己評価・相互評価を経て推敲した作品）

インターネットの普及により、ネットに依存する若者が増えてきている。仮想世界にのめり込み、現実の生活がうまくできなくなるなど、問題は深刻だ。私たちはインターネットをうまく利用するためにどのようなことに気をつければよいのだろうか。

たしかに、インターネットは、私たちに様々な情報を与えてくれる。興味のある単語を一つ入力するだけで、多くの情報を得ることができ、それに関心を持つ人たちとつながることができる。共通の話題があれば会話も弾み、見知らぬ相手とのやりとりは刺激になる。相手の顔が見えない分、思ったことも言いやすく、普段とは違う自分を演じることもできるだろう。そのため、つい気が大きくなって心ない書き込みをしてしまうことも起きてくるだろう。ネットに依存する若者たちの中には、現実社会のストレスのはけ口として、利用している人も多いと考えられる。

しかし、自分が違う自分を演じているように、他人も演じているということを忘れてはならない。また、匿名での行為とはいえ、自分の言葉には責任が伴うということを忘れてはならないだろう。中傷・誹謗を書き込めば、それを不快に思う、あるいは傷つく人間がいるのは、ネットも現実の社会も同じである。むしろ、顔が見えない分、ネットの方がエスカレートしやすいと考えられる。そのため、ネットの書き込みをめぐるトラブルが多く、ひどい時には事件にもつながってしまうのだ。そうならないために、責任と自覚を持って、利用することが大切だ。また、ネットの特質を考えると利用している本人だけでは歯止めが利かないこともあると考えられるので、周りが注意することも必要であろう。例えば、家庭では、時間を決めて使うなどのルールを決めることも有効だと考えられる。周りに人がいれば、仮想現実へのめり込むことは避けられるし、家族など身近な人と話ができれば、ネット上でのやりとりも減っていくだろう。そうすれば、ネットの世界も、誹謗・中傷ではなく、もっと建設的な意見を交わせるものへと変わっていくかもしれない。

したがって、私たちはインターネットを利用する際に、匿名性のメリットばかりにとらわれず、デメリットがあることを知り、自分がそこに陥る危険性があることを認識した上で、責任を持って、利用することが大切だと考える。そして、周囲の人と一緒に、よりよい使い方を考えていくことが必要だ。